

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・ここ数か月、風邪薬やクリーム等の季節商品の売行きが非常に悪かったが、3月はようやく平年並みに回復した。
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・全体での売上は前年比114%となった。部門別にみると、昼食は、広告メニューが好評で前年比で25%増加した。夕食は、統一地方選挙の影響から個人客が減少しており、前年比で15%減少した。一方、個室は企業の利用が増えて前年比200%を超えた。近年3月は企業の利用が少なかったため、今年は利益の出た企業が増えたように感じる。
		観光型ホテル （経営者）	単価の動き	・宿泊者数はそこそこであるが、宿泊単価が上向いているほか、売店等の付帯収入についても単価の伸びが著しい。全体の伸び率としては決して大きくはないが、3年前の売上水準に戻ってきている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3月に入り、来客数が増加している。添乗員付きの旅行が売れていること、また時期的なことから、退職者による利用が多いことがうかがえる。
		観光名所（役員）	販売量の動き	・ロープウェイの輸送人員は、前年比で5%の増加となっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は売上、来客数とも前年比3%程度増加しており、徐々に活性化している。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年春の訪れが早く、安定した天候となっており、業種によって若干のぶれはあるものの、総体的に前年比では良くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、来客数が増加しているものの、売上は伸びていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・昨年10月から売上の低迷が続いている。暖冬の影響も大きい。消費者の様子をみると、生活防衛型の消費行動となっており、不要不急な商品については特に慎重になっていると感じる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・出足はまずまず好調だったが、天候や気温の変化が大きく、春物商品の最盛期であるにもかかわらず、今一つ客の購買意欲が安定していない。このため、春物商品の安定的な売上がみられなかった。
		一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・例年なら3月は、企業の歓送迎会、学校の謝恩会等、外での飲食の機会が大変多い季節だが、今年は統一地方選挙を控えていることもあり、思いのほか会合が行われていない。このため、得意先である飲食店への入込数が少なくなっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・依然として客の慎重さがうかがえる購買動向となっている。衣料品では春物商品が思いのほか伸びていない。
		スーパー（役員）	単価の動き	・3月に入り客単価が前年比で0.5%低下しているが、来客数、買上点数が増加しており、既存店ベースでの売上高は先月と同様に前年比で1%強増加している。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・暖冬の影響で、買物等の移動に不便がないため、客が郊外の大型店に行く機会が多く、コンビニの需要が減少しており、来客数に影響を及ぼしている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・少雪で足場が良かったため、遠方のスーパーに客が分散した1～2月と比較すると回復傾向にあるものの、来客数は前年割れが続いている。売上は前年を上回っているが、依然としてたばこ増税に伴う単価の上乗せ要因が強い。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・AV機器は薄型テレビが順調に販売台数を伸ばしている反面、単価の低下が著しく、結果として横ばい状態である。その他の商品も好不調の波が顕著に現れており、家電全体でも横ばいの状況となっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量については一向に回復感がなく、相変わらず前年割れで推移している。

	乗用車販売店 (従業員)	単価の動き	・例年、この時期は一番売上の良い時期であるが、今年新型車が投入されたにもかかわらず、前年とあまり変わらない。
	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・売上の前年比が伸びておらず、苦戦している。
	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	競争相手の様子	・販売量の伸び悩みから価格競争に陥っている。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・前半は平日の客の入り方が特に悪く、来客数が前年比で10%の減少となっていた。後半から徐々にではあるが前年を上回る日が続いているものの、全体では前年を下回っている。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・来客数、売上とも前年比で2%程度のマイナスだが、昨年ベースで考えると平均的な売上であり、全体としては変わらない。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・客の来店に波があり、来客数が前年より悪化している。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・2~3月の客の様子をみると、客の動きが少し活発化したようであったが、このような傾向が長続きしない。ここ数日の客足や予約状況を見ると、客の動きが鈍ってきているように感じる。
	タクシー運転手	お客様の様子	・客の様子をみると、普段はバス、電車、地下鉄等の公共交通機関で移動しており、タクシーを利用するのは悪天候の時や急ぎの時などとなっているようだ。
	タクシー運転手	販売量の動き	・例年3月は人事異動の時期なので、送別会や謝恩会が催され、夜の街も多少はにぎわいがあるはずだが、今年は期待ほどではない。統一地方選挙を控えていることなどから、関係者が夜の街を出歩くのを控えているようだ。暖冬で雪が無いことも利用客の減少に拍車を掛けている。
	その他サービスの 動向を把握できる者	来客数の動き	・天候不順の影響で、前年に比べてフェリーの運休回数が多かった。
	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・戸建住宅の販売が相変わらず低調に推移している。
やや悪くなっている	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・2月までの暖冬で春物商品がいち早く動いたものの、3月に入ってからの気温低下、降雪により顧客の購買心理に冷や水を浴びせた格好となり、春物商品の動きが急激に鈍っている。ファッションは購買時期が重要なので、時期を逸した状況下で顧客の購買心理が好転することは望めない。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・北海道全体での既存店の売上高は前年比95.1%であり、2月からは2.4%のマイナスとなっている。部門別にみると、衣料品が前年比93.6%、住居用品が98.1%、食品が98.5%、専門店が89.8%となっている。2月との比較でも衣料品と専門店のマイナスが大きく、全体としては悪化傾向にある。全国の比較では住居用品、食品、専門店が遅れをとっている。
	コンビニ(オーナー)	単価の動き	・全体的に買上単価が低下している。客の来店状況を見ると、地元客が減り、地元以外からの観光客が多くなっているなど、地元客の動きが消極的になっている。
	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・統一地方選挙の準備等での外出が増えたり、天候もあまり良くなかったため、商店街への人出が非常に少なかった。
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・安売りの店に客が集まっているようであり、前年と比べると来客数が少し減っている。また客は必要な物しか買わない傾向にあり、新入学セットの単価も低下している。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・2月はそれなりに客の動きがあったが、3月に入ってから、例年と比べても極端に客足が減少しており、販売量も落ち込んでいる。
	一般レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・先月まではランチタイムの来客数が減少する一方でダイナーの来客数は前年並みであった。しかし今月はランチタイム、ダイナーともに来客数が前年割れとなった。

		スナック（経営者）	来客数の動き	・今年に入り、1～2月と売上が伸びていたが、3月に入ってからは、ぴたりと客足が止まっており、この3年間で一番売上が少なくなっている。選挙の年は悪いと言うが、歓送迎会の月であるにもかかわらず、繁華街は静かなものである。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・売上が前年比で20%程度減少している。
	悪くなっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・3月に入ってから、歓送迎会があるかと思っていたが、思ったよりも少なく、昨年を下回る状態となっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・景気が低迷しているせいか、最近ではタクシーの利用が天候に左右されることが多い。今年は3月の中旬に雪が降ったりしたが、それ以降は暖かい日が続いており、昨年よりもタクシーの利用客が大きく減少している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・最近では販売量が低迷していたが、更に状態が悪くなっている。販売単価自体も低下している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	輸送業（経営者）	取引先の様子	・営業努力もあるかも知れないが、輸送関係の物の流れが少し良くなっている。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・以前は価格に敏感であった客も、最近では納期や品質を重視するようになっており、商談時の視点の変化がみられる。デフレ意識からの脱却を客から感じる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・わずかではあるが商談が出てきている。ただし、高額の商材は少なく、価格は少額傾向にある。
	変わらない	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・昨年の9月以降、大都市部の好況を受けて受注が伸びている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・得意先である製紙業、飼肥料業、酪農畜産業等に大きな変化は出ていない。
		金融業（企画担当）	それ以外	・中小企業向けの設備資金は乏しい。観光客の増加や道産品の人気から、土産品を製造する水産加工業や菓子メーカーは堅調であるが、民間工事の不振や公共投資の削減で建設関連業者は厳しい。また暖冬で例年より降雪が少なかったことから、灯油販売店や除雪業者はマイナスの影響を受けている。総じて景気は横ばいで推移している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引は横ばい状態であり、これに関連する建物建築も同様であり、この分野の景気は変動していない。
	やや悪くなっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・輸入雑貨等は前年並みで推移しているが、一部商品の中には、中国での生産遅れから輸入が減少しているものもある。鋼材関係については本州サイドからの引き合いが強いこと、また輸出が堅調なこともあり、道内向けは大きく数量を減らしている。
		司法書士	取引先の様子	・公示地価も下げ止まりとはならず、建物建築の動きが少ない。
	悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（役員）	受注量や販売量の動き	・例年3月は納期が集中して混乱するが、今年は集中度が低く、売上が減少している。
雇用関連	良くなっている	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・3月末の内定率は、前年度を8ポイント上回る約89%になる見込みである。今年度は、企業からの求人票も増え、学生にとっては売手市場となった。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・人材派遣という形態であるが、コールセンター、販売業務、事務業務などの要望が多くなっている。派遣受入先の業績が向上しており、人材需要が高まっていることがうかがえる。首都圏とは全く比較にならないが、中途採用、それも経験の少ない若年者の採用ニーズも増えてきており、企業に若干の余裕が出てきているようである。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・飲食業、サービス業の求人件数の増加がみられるものの、建設や二次加工の工場の求人件数は伸びていない。

	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・例年3～4月にかけて、春先の求人件数のピークがあるものだが、今年は低調もしくは時期が後ろにずれ込んでいるように感じる。動きを見せ始めるはずの建設業や運輸なども、3月現在、例年のような高まりを見せていない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で3.4%増加しているが、一部の業種のみ増加であり、全産業に至っていない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・昨年10月から連続して新規求人数が前年比マイナスで推移しており、景気改善の動きが感じられない。常用ベースでの新規求職者数が前年から1ポイント弱の増加で推移しているものの、新規求人数は前年から3ポイント減少しており、差が拡大している。
やや悪く なっている	求人情報誌製作 会社（編集者）	それ以外	・求人総数は前年と同じくらいだが、業種の偏りがある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の前年比が2か月ぶりに減少した。
悪く なっている			